

止水域におけるアメリカザリガニの効率的な駆除方法の確立にむけて

石田真隆¹・吉村元貴¹・大門聖¹・中野修一¹・升方拓郎¹・小林一二三¹・嶋中雅章²・川井友二³

1 南河内水生生物研究会・2 石川河川公園・3 長野公園

止水域での外来水生生物駆除の問題

近年、ため池などの止水域における外来水生生物の侵入が問題になっている。その中でオオクチバスやブルーギルなどは、池干しを行うことで効率的に駆除できることが知られている。しかしながら、アメリカザリガニは、ため池の水が失われても泥の中等で短期間生存できるため、池干しによる完全駆除が難しい。また、池干しによりアメリカザリガニの捕食者であるオオクチバスなどがいなくなる事で、アメリカザリガニが増加する場合がある。アメリカザリガニは在来生物を捕食し、水生植物の根を切るなど止水域の生態系に大きな影響を与えている。以上より、アメリカザリガニの駆除は止水域の生態系保全の観点から非常に重要である。しかしながら、アメリカザリガニの効率的な駆除方法は、現在あまり研究されていない。そのため、アメリカザリガニの駆除に関する情報収集と効率的な駆除方法の確立を目的に、石川河川公園駒ヶ谷地区のため池と長野公園延命寺地区のハス池で、トラップを用いた以下の3つの実験を行った。

アメリカザリガニの駆除実験

- ① アメリカザリガニの誘引効果が高い餌の把握を目的に、餌選択実験を行った。場所は上述の2つのため池で、4月下旬と10月上旬に一週間継続して実施した。実験には、市販されている5種類の釣り餌を用いた。トラップは設置場所による誤差を軽減させるため、5種類の餌に対し2個ずつ、合計10個をため池ごとに設置した。実験結果から主に最も誘引効果の高い餌について考察する。
- ② 継続的な駆除効果の把握を目的として、2012年5月上旬から2012年11月下旬にトラップでのアメリカザリガニの駆除を上述の2つのため池で実施した。トラップには上述の餌選択実験で、アメリカザリガニを最も誘引した餌を用いた。実験結果からため池に生息するアメリカザリガニの個体数を推定し、継続的な駆除がアメリカザリガニの個体群へ与える影響について考察する。
- ③ アメリカザリガニが効率的に捕獲される時間の解明と捕獲効率が高いトラップの把握を目的に実験を行った。期間は5月26日と8月31日で、場所は長野公園延命寺地区のハス池である。2時間ごとにトラップ内のアメリカザリガニを採集、計測を行う作業を、32時間行った。トラップには上述の餌選択実験で、アメリカザリガニを最も誘引した餌を用いた。実験には、市販されている4種類のトラップを用いた。また、トラップの種類ごとに遮光したトラップと障害物の中に入れたトラップ、細工を施さないトラップの3タイプを用意した。実験結果からアメリカザリガニの駆除に適しているトラップの種類や形状、トラップの効率的な投入時間、および回収時間等を考察した。